

# 記念の年

## 新たなスタートを！

会長 鈴木 精成

新年あけましておめでとうございませう。皆様お揃いでお元気に新しい年を迎えられたことと存じます。

依然として続く新型コロナウイルスの席卷に「日常」を奪われて過ごす毎日ですが、令和三年が確実に訪れています。

気持ち新たに、元気一杯の歩みを開始したいと願っています。

令和二年中の辛い思いは、言葉で言い尽くせないものですが、物事は考えようで、この体験の中から新たな流れ、新たな取り組みが生み出されています。

### ○新しい教場の誕生

「永山教場」(4/1) 「表参道教場」(11/1) スタートおめでとうございませう！

○教場での勉強機会の減少を補うべく、何らかの自習工夫が生まれている。

○オンラインシステム「Zoom」等を利用して「バーチャル？」教場や有志の連携勉強会が開催されている。

○「千代田ホームページ」の活用による吟詠自習が積極的に取り組まれている。

勿論、私たちの詩吟の楽しみは教場等での対面と集合の研修の場にあると言えます。吟友との楽しい出会い、先生からの直接指導こそ原点でしょう。今後、遠からぬ日に再びそうした教場での出会うの機会が来ることを信じて、「今」を大切にしたいと思えます。

私たちは、ここに令和三年の希望の年を迎えています。完全な「日常」にはまだまだの日々が続くでしょう。迎えたこの年、私たちが最も親しむ「詩吟ワールド」を最大限に生かす大事な年にしたいと思えます。

今年のお取り組みスローガンは、

「明るい教場！千代田の絆！35」です。

今年、千代田岳精会は「創立三十五周年」を迎えます。多くの先輩の方々が築いて来られた「三十五年」の歴史を重く受けとめ、新たな前進のスタートを切りましょう。

会員皆様とお諮りした結果、記念の集いはしっかりととした体制の下で行うべく、令和四年に持ち越すことといたしました。早速準備にとりかかります。

例年どおり、会を挙げての年初の企画として、「昇任審査会」を予定しています。コロナ対応や開催会場都合等により、日時、場所の確定が難しい状況ですが、四月中旬に行えればと願って目下準備中です。昨年の審査会が変則開催でしたので、今年こそはスムーズな開催が出来たらと思えます。皆さん早速準備にかかって下さい。

流統本部の行事も、新たな抱負のもと全国吟道大会を六月二十四日(木)に開催すべくすすめられています。一年の空白を乗り越えての大会に千代田吟友挙って参加し、強い一歩を踏みしめたいと思えます。

千代田岳精会は、かねてから「研修の千代田」を自負しています。中でも会員横断の「自主研修会」(剣詩舞・俳句自作・漢詩づくり・千吟会)がいろいろな悪条件を乗り越えて始動し始めているのは心強い限りです。多くの会員の参加が期待されています。

各メディア報道によれば、コロナ対応ワクチンの開発も進んでいるようです。

「夜明け」は間近！と信じましょう。

岳精流日本吟院

# ちよあ

第 66 号

令和 3 年 1 月  
千代田岳精会弘報

令和三年岳精流指標

## 自在の心

# 令和二年昇伝審査

毎年四月に千代田で開催される指導本部審査員による六段以下の昇伝審査会は、コロナ感染拡大のため、感染リスクを避けて教場毎に八、十月に指導本部員である鈴木会長・岩崎顧問の審査により行われ、一四七名が合格されました。

準師範・奥伝以上の審査会は、感染が収まらない状態が続き、実技審査のみが総本部で十一月三日開催されました。師範の筆記試験、個人面接は会長の推薦と論文提出という形に変え実施されました。実技審査十四名、師範試験十五名が受賞しました。優秀な成績で合格されました。全教場が半年にわたって休講となり指導も練習時間もない不安な状態を克服した会員の皆様、おめでとうございます。今年も例年通り、春に開催を目指し準備を進めています。

## 奥伝

本田 親風 (丸の内)  
 横山 秀風 (ハザマ)  
 佐藤 祥風 (我孫子)  
 齋藤 麗山 (丸の内)  
 坪川 稔山 (丸の内)  
 安田 正山 (鎌倉)  
 加藤 雅山 (清流)  
 伊藤 雄山 (東陽町)  
 土居 佳山 (東陽町)  
 脇阪 緑山 (東陽町)  
 小林 照山 (神楽坂)  
 金城 明山 (神楽坂)

## 中伝

## 初伝

浪久 晶山 (神楽坂)  
 浪久 雅山 (神楽坂)  
 野附 晴山 (調布)  
 中根 三山 (調布)  
 長部 恵山 (志茂)  
 和田 之山 (新陵)  
 竹森 伊山 (新陵)  
 柴田 豊山 (新陵)  
 小梶 湖山 (新陵)  
 西坂 佳山 (新陵)  
 田川 行山 (みなとみらい)  
 中川 寿山 (みなとみらい)  
 駒田 秀山 (生田)  
 関根 雄山 (生田)  
 石井 寅山 (新宿)  
 塚田 正山 (新宿三)  
 岡本 英泉 (丸の内)  
 座間 萌泉 (丸の内)  
 柴田 弘泉 (丸の内)  
 阪川 信泉 (鎌倉)  
 榎田 喜泉 (桜ヶ丘)  
 伊藤 彰泉 (東陽町)  
 中津留 準泉 (神楽坂)  
 森兼 康泉 (清水)  
 笹倉 和泉 (逗葉)  
 櫻井 気泉 (神田)  
 坂部 玄泉 (用賀)  
 川口 忠泉 (ハザマ)  
 松田 俊泉 (ハザマ)  
 能島 浄泉 (新陵)

## 皆伝師範 奥伝師範

## 準師範

西川 琉泉 (新陵)  
 小川 尚泉 (新宿)  
 萩原 龍晴 (ハザマ)  
 森田 準風 (丸の内)  
 鶴飼 輝風 (東陽町)  
 木村 誠風 (草加)  
 宇田川 香風 (銀座)  
 増子 梨風 (銀座)  
 石田 匠風 (我孫子)  
 浦谷 江風 (新陵)  
 鎌田 秋山 (丸の内)  
 下條 信山 (丸の内)  
 袖井 孝山 (神楽坂)  
 塩月 崇山 (調布)  
 村林 恵山 (調布)  
 松本 篤山 (用賀)  
 小浦場 伯山 (ハザマ)



越後駒ヶ岳 星野久風 (清水)

## 岳精流日本吟院に入会した動機

丸の内 本田 親風

私は、小学生の時学校の授業で詩吟を習った。ところが詩吟は軍国主義を教えることになるとして、禁止されてしまった。詩吟は人間精神の涵養に最適だと思ったので禁止されて大変残念だと思っていた。それが、今、改めて公認され、嬉しく涙がこぼれそう。人生の道しるべの一端を担ってくれる詩吟、そう思っただけで孫や若い人達に勧め、そして自分自身にも、改めて修養のつもりで勉強し、生きていきたい。

## 奥伝審査を受けて

我孫子 佐藤 祥風

此度、奥伝の審査を受け、奥伝の号である「風」を頂くことになりました。顧みればよく続いたものと感慨も一入です。

平成二十一年九月、松戸教場開設に伴い、大学・会社の先輩で鎌倉教場長だった故高橋辰風氏の強いお勧めにより入会しました。すぐ辞めるつもりが、故二宮教場長の人柄に触れ、ご指導よろしきを得て吟に親しむことが出来ました。松戸から我孫子へと場所は変わりましたが、約十二年間、奥伝に至るまで吟を続けられました。

これは偏に吟の先輩諸氏、教場の方々のお陰と心から感謝しております。

「風」に相応しい実力となるべく研鑽を重ねる所存です。今後も皆様のご指導を頂ければ幸甚に存じます。

じます。

## 三冊の修得手帳

新陵 浦谷 江風

今般、奥伝師範に合格し、その免許を頂戴しました。平成十八年に、当時のハザマ教場に入会いたしました。以来、おおよそ十五年、先輩諸氏のご指導を頂き今日に至っております。入会以来の詩吟修得手帳は三冊目を終えなつかしく見返しております。指導印欄には既に鬼籍に入られた何名かの方々の御印を拝見し、指導して頂いたことを思い出しております。

もともと、音楽的な素地に恵まれていなかった小生にとつて、現在の吟力も貧しいものですが、今日ここまで至りましたのも諸先輩からのご指導の賜物と喜んでおります。今後は、今までに受けた吟力を生かし岳精流日本吟院の名に恥じない活動に精を出していきたい所存です。今後とも皆様のお力添えを頂き励んで参ります故、よろしきご指導ご鞭撻の程お願い致します。

## 奥伝師範を受験して

我孫子教場長 石田 匠風

令和二年は三月よりコロナ感染防止のため、外出自粛で十か月が過ぎました。離合集散による人との接触がなく生活することへの難しさを感じました。私も詩吟同好会の皆さんの支えを得て、元氣と自分の心技体を維持して来しました。

教育の計は百年にありと言います。伝える、教え育てると言うことは難しいです。日本の伝統文化なるものは、長い年月を経て出来たものと思えます。詩吟に「礼節」とあり、この一句に感じるものがありました。今年の師範審査に筆記と面接試験がなく論文のみ提出、詩吟に近道なしとあり、私も入会が遅く吟道浅く道半ば、人生百年の計に詩吟あり、へ挑戦して知識はまだ浅いのですが案内役が出来ればと思っ居ります。

早くコロナ感染が終息して、教場及び行事等に詩吟の元気な声が聞きたいです。

## 準師範試験

調布副教場長 塩月 崇山

この度、中伝準師範試験に合格出来ましたこと、誠に有難うございます。

平成二十四年三月、東陽町支部教場を見学した折、菊地前教場長、磯田常任顧問、岩崎常任顧問、会社の現役時代の大先輩に強く入会を勧められ、即日決断し入会しました。早や九年の歳月が過ぎ去り今日を迎えることが出来ました。

私には、人様に少しは自慢できる趣味として、園芸(キャリアア四十年)がございます。それに加えてこの機に俳句を第二の趣味として育てたくキャリアアップしたいと思っております。ごさいます。

定年時、息子より祝いとして『人生これからが楽しい』との書を貰いましたが、この言葉を励みとしながら今後迎えるであろう壁を一つひとつ

諸先輩に沢山の知識と力を頂きながら努力して  
いきたいと思っております。  
『人生これからが楽しい』

### 準師範取得に思う

丸の内副教場長 鎌田 秋山

詩吟に魅力を感じて始めたわけではなかったが、八年経過した今では日常生活に欠かせない一部になっている。規定とはいえ、準師範の資格を得たことに喜びを感じている。

今までは、研修会等の積極的参加で諸先生方の吟を多く聴くことで自身の吟の向上に努力してきた。今後、準師範としての役割としては、更に自己研鑽することは勿論、教場長を補佐し、後輩の吟友の育成に努める必要がある。その一つに、コロナ禍はしばらく続くと思定されるため、SNSの利用、またウェブ会議システム・Zoomを利用した吟詠研修の取入れも必要と思っている。岳精流の準師範として進む以上は、宗家信条「真善美」を更に探求し理解し、明るく楽しい魅力ある教場を目指し、吟友の輪が広がることに努力して行こうと思っている。

### 準師範の資格を得て

神楽坂 袖井 孝山

コロナ禍のため、二〇二〇年は何もかも異常でした。準師範の資格を得るにも、通常であれば課題論文の提出に加えて、川崎にある岳精会本部に

出かけ筆記試験や面接を受けなければならぬのですが論文提出だけでよいということになりました。

自粛生活で時間がたつぷりあったので、私は締め切りの一月前には論文を仕上げていました。思いがけず十月中旬に道路で転倒骨折し、急遽入院手術ということになりました。そこで入院前夜に課題論文をメール添付で本部宛に送付しました。早めに作成しておいてよかったです。何だか上げ底のような準師範なので、まだ実感がありませんが、これからは資格に恥じないよう精進して内実を高めていくつもりです。

### 準師範を受けて

調布教場長 村林 恵山

令和二年を迎えた二月頃から、日本中コロナウイルス騒ぎ、今までにない空気に自分自身の健康管理は勿論、会員さんの家族も心配です。教室も開けず、詩吟の勉強も出来ない状態が七か月も続き、寂しい気持ちのこの時期に、準師範を受ける機会を作って頂き、感謝申し上げます。誠に有難うございます。まだまだ光は見えませんが新たな気持ちで仲間と吟を学び、岳精流の正しい流統を大切に一歩ずつ精進を重ねて参ります。  
諸先輩、先生ご指導宜しくお願い致します。



### 中伝準師範に合格して

ハザマ副教場長 小浦場 伯山

振り返りますと、ハザマ支部教場に入会してあつという間に八年が過ぎ、九年目に入りました。準師範は「指導を認められる」ということです。が、当教場は人生の先輩の方が多く、逆にこちらが教わる事が一杯あります。指導というより、会員の方々と一緒に学びながら吟の勉強をして行きたいと思えます。

近年、若い方の入会が減っているように思えます。何とか吟の魅力をアピールして、若い方の入会を増やしたいと思えます。

またコロナ禍の中、複数の教場の皆さんと一緒にZoomによる吟の実施は今後益々必要になってくると思えますので、その普及に協力できればと思っております。そして、明るく開けた教場を目指したいと思えます。

### 雅号を拝受して

新陵副教場長 西川 琉泉

このたび「泉」号を拝受し、感慨深いものがあります。まずもって、詩吟の世界へ誘ってくれた友人、今日までご指導下さった先生方、そして活動を後押ししてくれた吟友達に心から感謝申し上げます。次第です。

詩吟との出会いから四年が経ちました。この間を振り返ってみますと、まず第一に心身とも健康



になりました。腹の底から大声を出せることはその証と感じます。人間ドックの項目にある「肺年齢」が、年毎に若返っていることは大きな喜びです。次に「学習機会」が増えました。吟題となる漢詩や短歌・俳句などの内容は勿論のこと、それらが生まれた時代背景や作者に係る関係文献等の勉強にもつい熱が入ります。そして、詩吟が「生活の一部になっている」ことを実感しています。日常の発声・吟詠練習のみならず、散策している時や車を運転している時でも、ごく自然に詩文や吟を口ずさんでいる自分がいるからです。

このたびのコロナ禍にあっても、詩吟の果たした役割はとても大きかったのではないでしょうか。外出が抑制される中であって、ホームページでの自習プログラムやオンラインでの学習が多くの方の心を癒してくれたことでしょう。

これからは、このような詩吟の魅力を一人でも多くの人に紹介していきたいと思えます。そして自分自身も、奥深い詩吟の道を一歩でも極められるよう努力を重ねて参る所存です。

## 今年の昇伝審査

丸の内 岡本 英泉

毎年四月に行われていた昇伝審査がコロナの影響で秋に延期、会場も各教場に変更され、感染防止のためフェイスシールドかマスク着用での審査となりました。丸の内教場は新宿文化センターで岩崎先生立ち合いの下、十月一日に実施されました。私は四回目の審査で今年は課題吟があり

「己亥の歳」を選択しました。コロナで巣ごもりを余儀なくされたので時間は潤沢にありましたが家では大声が出せず、小声での練習になり少し不安を残して当日を迎えました。

出番迄あつたドキドキ感も名前を呼ばれ、伴奏が始まると消えて何とか吟じ終えていました。後日教場で雅号「泉」の入った許証を頂きました。コロナ禍でマスク着用しての昇伝審査と雅号「英泉」の許証は晩年の良き思い出になりました。

## 声を出す事が好き

逗葉 笹倉 和泉

詩吟との出会いは「声を出す事が好き」から始まりました。お腹から大きな声を出して気も心も晴れやかになります。コロナの流行で家に閉じ籠りがちな独居老人には何よりの良薬です。今後も元気に声を出して健康で過ごしたいと思えます。

## 五年目に向かう詩吟

鎌倉 阪川 信泉

去年、コロナ禍の中私は年男で、また初伝審査を終えました。早いもので今年で五年目に入りますが、平成二十九年二月に、何も知らずに入門しました。教場をはじめ会員の方々に恵まれて今まで続くことが出来ました。その中で、二年前の夏頃にコンダクターも習いました。そして去年から教室で全員で岳精会会詩を吟ずる時、私にコンダクターを任せて頂き本当に光栄に思い、又嬉しく

感じました。しかし、未だに吟ずる時に声を前に出すことが巧く出来ません。

新年明けての五年目の節目として、まずはコンダクターを更に巧く弾くこと、又吟ずる時は息の取り方を体で感じて詩吟に幅を持って吟ずるよう努力したいと思っています。

## 初伝に思う

東陽町 伊藤 彰泉

五年前、平成二十八年の入会時には詩吟を全く知らず戸惑うばかりでした。先生・先輩の方々から、大きな声を出すこと、正しく口を開けること等のご指導のおかげで順調に詩吟らしくなってきました。

平成三十年からは港区のコンクールに出場し、入賞できたこともあり少しずつ自信もついてきました。練習しすぎたせいか、二本の声が出なくなりまた一本から出直しています。何事もそうですが、詩吟も良くなったり、悪くなったりしながら上達していくのでしょうか。今回、初伝を頂いたことを機会に、更に練習し、元気に長く吟じられるよう、そして、その美なるものに感動できるようになるまで続けて行こうと気持ちを新たにしました次第です。



## 初 伝

神田 櫻井 気泉

コロナ禍で令和二年の昇伝審査も延期となり、神田教場も三ヶ月中止となりました。この間、五月に肺癌の手術をしました。

手術後は咳が出て息が浅く苦しいのですが、出来ることから努力しようと思いましたが、回復しつづありません。

神田教場は、六月から市川に場所を変えて再開されました。九月の昇伝審査に向けて教場の先生方から沢山のご指導を頂きました、有難うございます。

雅号は、これからの詩吟生活についてまわるもので何にするか悩みました。幾つかの案を考えました、私は長年太極拳を習っているので、太極拳の先生にも相談し「気」と決めました。雅号を戴いた今、詩吟の縁を大切に気持ちを新たに努力していきます。

## 雅号「泉」を拝受して

丸の内 座間 萌泉

千代田岳精会・丸の内教場に入会して早や四年。この度の初伝審査において雅号「泉」を拝受いたしました。

今年にはコロナ感染拡大を防ぐため、三月から半年間教場が閉鎖になりました。更に今まで通い慣れた会場も使用出来なくなるといふ不運も重なりましたが、先生方のご尽力により、九月から新

しい会場で学べるようになりました。

このような厳しい環境の中で昇伝審査を実施して下さり、感謝に堪えません。今後は雅号に恥じない吟が出来よう精進する所存です。

ご指導賜りました岩崎先生はじめ教場長並びに諸先輩方には心からお礼申し上げます。

## 詩吟の素晴らしさ

ハザマ 松田 俊泉

新型コロナウイルスとの攻防の日々の中、令和二年の昇伝審査が例年より遅く開催されました。また、会場も変更となり、日頃研修を行っているハザマ社友室で十四名が鈴木会長の審査を受けました。私は、初伝を受審し二指定吟題のうちの一つを指定され吟じました。

今迄にない厳しい会長、萩原教場長、教場幹部の指導により、CDによる吟詠の練習を自宅で繰り返し行うことにより自信を持って吟じることが出来ました。後日、初伝と雅号の認許を頂き益々詩吟の素晴らしさを感じると共に、今後も教場の皆様方と楽しく、厳しく練習を重ねて行きたいと思っております。

## 雅号を戴いて

桜ヶ丘 榎田 喜泉

仕事をリタイアした後の趣味を探していた折、知人の紹介で詩吟を知ることが出来ました。決して真面目な生徒ではない方ですが、教場長をはじめ

め教室の皆さんが優しくアットホームな雰囲気です。で迎え入れてくれ、直ぐ馴染むことが出来、瞬間の三年でした。

発声の仕方、アクセント等、的確なアドバイス頂きながら成長のない私を親切丁寧にご指導いただいたことを本当に感謝しております。

歌の大好きな父の名の一字「喜」を雅号に頂き、少し親孝行をした気分です。父の名に恥じぬよう、そして後の人生を心身に健康維持が出来よう、詩吟を精進し楽しんで参りたいと思っております。この度は有難うございました。

## 楽しみをもって

丸の内 柴田 弘泉

詩吟を始めて三年が経過します。「泉」というランク付を許されました。高年齢での趣味と出会い、少しずつですが詩吟に慣れてきた様な気がします。教場でのご指導と練習等が、詩吟の楽しさと吟詠の出来る喜びを感じさせてくれます。今以上、毎日無理せず元気で楽しい詩吟を続けていきたいと思っております。



初伝となって

新陵 能島 浄泉

コロナ感染は我々の生活全てに大きく影響を及ぼし未だ終息の兆しが見えない環境にありますが、この度「初傳浄泉 能島信夫」と書かれた許証を受領致しました。五年に亘る精進の証として詩吟を続けてきて良かったと心地よい感慨にふけた次第です。

これまでご指導頂いた鈴木会長、教場長他諸先輩の皆様のお陰と改めて厚くお礼申し上げます。現在、教場はオンライン(ZOOM)開催です。

鈴木会長の範吟、参加者独吟、次週の範吟と続き終了後、録画を使い次週の予習復習に役立てており、皆様に好評です。どんな環境であれ継続は力なりです。今後とも気魄ある詩吟で更なる上位の段位を目指し、精進して行こうと思います。

私のライフワーク

神楽坂 中津留 準泉

仕事の縁でご厚誼を頂いた勝村神楽坂教場長に聴かせていただいた詩吟に魅せられて入会させて頂き、早や四年目となりました。

音痴の私が詩吟を習っても上達は難しいのではないかと恐る恐る始めたのですが、教場長はじめ教室の皆様の温かい励ましを頂き、少しずつ上達することが出来ました。そして九月の審査で初伝に合格、雅号まで頂きました。大きな喜びではありますが、一方で自分自身の未熟さも痛感して

います。今後も練習に励み、自信の持てる吟力に身に着けたいと思います。詩吟を通じて多くの素晴らしい方々とご交誼を頂くことが出来、世界が広くなりました。ライフワークとなった詩吟の練習に精進しつつ、楽しい人生を送りたいと思います。

令和二年、初伝受領して

ハザマ 川口 忠泉

令和二年(二〇二〇年)は東京オリンピックの年、記憶に残る初伝審査になると思っていましたが、新型コロナウイルスの影響で東京五輪・パラリンピックは令和三年夏に延期されました。詩吟はコロナ禍の中、関係各位のご尽力により昇伝審査会を実施していただき感謝申し上げます。

今秋の審査で初伝認許をいただき、雅号「忠泉」を頂きました。何かと記憶に残る年でした。日々一日一句(詩)を実践していきたいと思っています。

テープ審査

清水 森兼 康泉

令和二年の三月以降は、コロナの影響により教場での練習が出来なくなり、また、再開後も勤務の関係で参加できず寂しく思っておりました。

今回、昇伝審査がテープで行われることになり、自主練習用にと細川教場長からテープを送って頂き自主練習を始めました。一人の練習はつい独

り善がりになり、このままではテープ審査が通らないと不安でしたが、録音当日に教場で録音前に久し振りに教場長のご指導を受け、ようやく合格致しました。今更ではありますが、教場で学ぶことの大切さを痛感いたしました。

今回初伝に合格出来ましたのも教場長をはじめこれまで一緒に学んできた皆様のお陰と感謝しております。

現在は、新しい教場に通うことになり、改めて一緒に詩吟を学ぶ楽しさを味わっております。



<清水教場の昇伝審査>





# 「表参道教場」開設

新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、教場は休講が続き、会員の活動も自粛と重苦しい雰囲気の中、「青山学院大学」内に新教場発足という明るいお知らせです。

## 「表参道教場」開設のご挨拶

教場長 徳本 龍治

この度表参道の青学会館で清水教場関連の五番目の教場として「表参道教場」を開設しました。青山学院の要職にある清水教場会員の堀田宣山氏のご尽力により、青学関係の詩吟愛好者をお誘いして、今回の運びとなりました。

この教場は、青山学院の教職員や新しい時代を担う学生を対象に、我が国の伝統芸道である詩吟に親しむ場を提供し、詩歌を通して往時の賢人・英傑の心意気に触れる機会になればと念じて開設した次第です。

最後に、表参道教場の簡単な概要をお知らせして、千代田岳精会の皆様のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます、開設のご挨拶とさせていただきます。

### 【表参道教場の概要】

○場所：東京都渋谷区渋谷四―四―二五

アイビーホール（青学会館）内

地下鉄表参道駅下車 徒歩約五分

○教場開催日：毎月第一・三火曜日

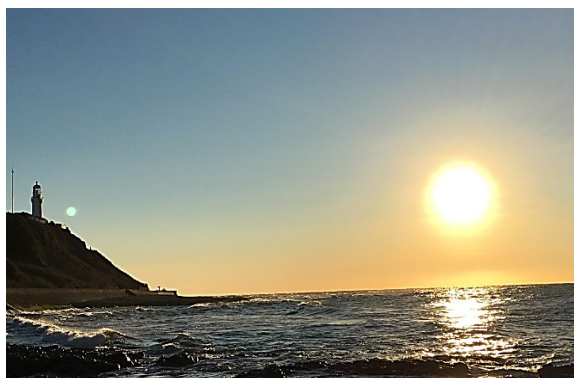
午後五時十五分～午後七時

## 表参道教場の開設にあたって

表参道 松岡 省泉

明治安田生命新宿ビルの再開発により、所属していた清水教場も中野に会場を移しました。

しかし未だ会社勤務している三名は、どうしても開催日時が合わず、その間、徳本先生のZoom研修での練習を継続していました。その様な状況下で、縁あって表参道で詩吟が出来る場所が見つかり、第一・三火曜日十七時半から始めました。時間的にも勤務後に参加出来るということで、段を有する三名と新しいメンバー八名で十一月からスタートを切るようになりました。今後「詩吟をやりたいが仕事が…」という方にも参加が出来る教場として平均年齢も下げつつ、岳精流詩吟の発展のため、自己研鑽が出来る様に頑張りたいと思います。徳本先生に指導を頂いておりますが、今後とも宜しくお願い致します。



# 年男・年女

今年の干支は辛丑（かのとうし）です。



## 地元の伝道師

草加 木村 誠風

私は郵政職員を定年卒業後、明治生命丸の内本社に勤務させて頂き、「詩吟」の世界「岳精会・丸の内第一教場」に入会を許され、途中、妻の闘病生活で九年間休み、妻他界後、吟友の皆様の支えを頂き七廻り目の干支を迎えることができました。「草加教場」では太田教場長、中内博風金町教場長、小林龍真先生をはじめワンチームの温かい吟友に恵まれています。高齢者の私はヌルメの湯船流学習吟で、吟礼から吟の世界に入り、次回教室予定吟を二分・三分・四分と吟題に合わせて吟詠を予・復習しております。

地元岩槻の老人学校や歩行に杖二本使用の介護施設利用の仲間達、地域の高齢者仲間づくりの「伝道師」を志したいと、大きな夢を育てたいです。

## 七回目の年男

新宿第二教場長 坂下 光山

現在八十三歳になる私は今年七回目の年男と



なった。八回目と思つたら、生まれた年は年男と言わないので、七回目なのだそうだ。

年男の性格には「自信過剰」というのがある。これを見たとき十二年ごとに性格が変わるわけでもなからうにと思つたが、私の場合は年男でなくともこの傾向がある。

入会翌年の吟剣詩舞道連盟の吟詠コンクールで何の間違いか入賞してしまった。それもベテラン教場長より上位でこれが良くなかった。なんだ、詩吟ってこんなものか。俺は天才か、と天狗になった私は当然上達が遅れ、ふと気が付いたら後輩がコンクールの常連入賞者となっており、私の名前は呼ばれなくなっていた。げに「自信過剰」とは恐ろしいもので、今では反省して真面目に練習している。

### 九十歳までゴルフできる体力維持

清流 黒澤 勇泉

定年後関連会社へ即入社、七年間ビルメンテナンス会社の営業を続け六十七歳で終了、良い経験をする事が出来ました。M社の上司で仕えた磯田精信先生から詩吟をやってみたらどうか、全て俺に付いてきたらと誘われ、男でありながら丸の内女子教場に入会しスタートしました。

教室は活気があり厳しく菅原精純先生そして森山仙山教場長を中心にご指導いただいたて、今まで枯木も山の賑わいで小さくなっておりました。カラオケなら普通に歌えるのに吟は決して甘くない。基本をマスターしなければ人前で吟ずる

ことが出来ないと思いました。

結論は素質が無いことです。コロナ禍で教室に集合することもできず寂しい日を過ごしております。

令和三年は自分の干支丑年を迎えます。九十歳までゴルフの出来る体力を維持し、次の丑年は人生のゴルフ、生涯で二度目の東京オリンピックを観戦出来る喜び、清流教場の益々の発展へ微力ながら頑張つて参る所存です。

### 野に生ふる草

新宿第三 塚田 正山

立春を過ぎる頃から騒ぎ始めたコロナウイルス感染は、国民生活に動揺と不安を与えた。経済の悪化はおろか文化・教育・スポーツに混乱を招き、医療崩壊の論議をも引き起こす事態となった。

心身の疲弊は日常生活に根強く広がり、今尚その影響が続いている。余儀なくされたステイホーム、これ程の疲労・苦痛、未だもって経験したこととは無い。更に都市部以外へと広がっているコロナの連鎖はいつまで続くのか、心配の種だ。

新宿ブロックではコロナの拡大を予測して、二月末から休講とした。再開のめどが立たないまま無期の休講が続いた。幸い八月末に再開した新宿教場は、駒込駅のすぐ近く地域文化創造館の一室に落ち着いた。清楚な音楽教室である。会場確保設定のために長期間奔走された役員の方々のお陰と感謝する。

ここに与謝野鉄幹の短歌を挙げる。

野に生ふる 草にも物を 言わせばや

涙もあらむ 歌もあるらむ

物言わぬ野の草に心を寄せ、愛しみの心を抱く健気な作者の心境が伝わってくる。幸せな気持ちに浸る。立冬も過ぎ、小雪、大雪の季節。やがて北風の吹く厳しい寒気の到来である。それでも猛るかコロナウイルス。嗚呼、吾閑吟す。

### 八回目の丑年

清水 船津 英風

早いもので、今年八十四歳となり年男を迎えました。丑には牛が配され牛は「のろま」というイメージがあり、子供の頃は抵抗を感じていました。歳が経過するにつけ評価も変わり、高村光太郎の詩に「牛はのろのろと歩く、自分の行きたいところへはまっすぐ行く、一足ひと足自分の道を味わって行く」の一節があり牛の生き方に共感を覚えます。

和牛の歴史は古く古墳時代に大陸から渡来したと言われ、農耕、運搬等の労役として活躍し、平安時代には貴族の乗り物である牛車(ぎつしゃ)の牽引に用いられたという。現代では美味しい肉や牛乳を我々に提供する大切な存在です。

今年牛歩でいいからコロナ禍を克服し、マスク無しで詩吟が出来るよう頑張りたい。

令和三年（辛丑）年男を迎えて

丸の内副教場長 下條 信山

令和三年は丑年年男、七十二歳になる。十二年前は還暦の六十歳。詩吟を始めたのがまだ現役であった六十二歳であり、過去十二年は、ほぼ詩吟とのお付き合いの期間と軌を一にする。詩吟を始めたのは新宿の小料理屋『利休』の女将古屋リクコ（利山）さんの紹介であった。当初はあまり気乗りしなかったのだが、教室の後の「食事会（飲み会）」が楽しみでここまで来た。

六十六歳で一切の仕事を終え、現役引退後は、①興味ある歴史の勉強（中国古代史）②ゴルフの上達③東京オリンピックに向け「英会話の修得」④好きな旅行を思う存分：などと思っていたが、振り返ってみれば続いたのは唯一「詩吟」のみ。これも詩吟が好きで、というよりも始めた頃と同じく、教室帰りの教室メンバーとの「お酒一杯」が魅力で続いてきたようなものである。

二十三歳で社会人になってからの過去を振り返ってみると、結構つらい仕事をはじめ、多様な仕事に携わってきたが、一貫して（？）周囲の人々との（お酒を媒介とした）人間的な交流を求めて過ごしてきたような気がする。してみると『詩吟』との出会いは、自分の人生において最高の機会に恵まれたと言えることができる。紹介者の古屋さんに大感謝である。また、詩吟には年齢が関係ないというのも大変な朗報であり、これからの取り敢えずの十二年間、一層の吟力の向上を目指すとともに、これからも健康に留意し、多くの人々との

交流を心掛け、楽しい人生を歩んでいきたいと思う。

### 遠い日の記憶

用賀 坂部 玄泉

私は牛の版画を彫っている、というより彫り上げた版画を見ているのだ。手も足も大地にしっかりと降りし我ながら堂々とした牛の立ち姿であった。種類でいえばホルスタインの様であったと思う。

後年、それは「牛を彫った」のだが、来年干支を迎える子供達に、先生が干支である丑を彫らせたのだと気づくには幾ばくかの年月を要した。そして人生幾年月干支が巡ってくる訳だが、懐かしい「中川先生」の記憶と共にその情景が今も輝いて蘇るのだ。私、「用賀小学校六年」。遠い日の記憶。

そして母と私、何故か神棚に鎮座する牛。「家の中に同じエト三つはイイ」と母は言った。今では母は生まれ故郷福島の赤ベコとなつて仏様に、神棚には変わらず鎮座する牛、そしてそれなりに吟詠に励む私、丑歳。うし三つ。愛出度いだ。

### 毎日を楽しむ

中野 金岡 博泉

今年は十二支の「丑」の年で、私は七回目の年男になりました。

仕事をリタイアしてから六年余り、従来からのハイキング・旅行に加え、囲碁・詩吟と気儘に年金生活を楽しんでいます。この内、ハイキング・旅行が一番の楽しみですが、最近は体力の衰えを感じ、登山に出かけるのが億劫になっています。「大きな声を出して、気分良く」ということで始めた詩吟でしたが、中野教場で諸先輩のご指導の下、七年目を迎えます。

新たな吟友とも交わり、吟を楽しみながら気力の充実を図っております。今後ともご指導の程、よろしく願ひします。

### 偶成

東陽町 伊藤 彰泉

還暦を迎えたのはついこの前のように思われますが、あつという間に十二年が経ってしまいました。それもそのはず、十歳の時の一年は人生の十分の一（一〇％）もあつたのですが、七十二歳の今の私の一年は人生の七十二分の一（一・四％）でしかありません。光陰矢の如し、これから毎歳を重ねるごとに一年がどんどん短くなつていくに違いありません。

昨年、世界中に大きな被害をもたらした新型コロナウイルス、特効薬やワクチンが普及するのは少し時間がかかりそうなので、今は活動を少し抑え、エネルギーを蓄えながら吟じ、来るべき新型コロナウイルス制圧時には、皆様と共に盛大に吟を爆発させようと思っております。

どんどん早くなつていく一年一年、吟を元気に

楽しんで、気が付けば百歳。なんて、まずは癸丑までが次の一里塚です。これからも人生を元気に過ごしていくため、大きな声を出して楽しくストレスを発散できる吟の素晴らしさを改めて感じた今年の年始めでした。

## 「Z o o m 研修会」の現状とお誘い

令和二年四月二十八日(火)に宗家の一般研修会吟題「**田園の楽しみ**」(王維)がZ o o m 使用にて初開催され、岳精流参加者は五十四名であったと記録されております。千代田からも鈴木会長はじめ十数名の方が参加されました。

令和二年は新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、二月下旬から千代田岳精会の三十教場の内、三月になると殆どの教場が閉鎖となり、千代田岳精会の会議や諸活動も中止となりました。その中で、総本部でZ o o m 使用による「宗家の一般研修会」が開催されたことは画期的なことでした。Z o o m は以前からありましたが、今年になりコロナ禍の中で一般企業や大学等で「オンライン会議、教室」等で使用が増加し、毎日のように話題になりました。

「パソコン」「タブレット」「スマホ」等で使用できます。Z o o m は携帯と同じように「音声通話」等ができ「基本は四十分無料」「ホスト役から教室に招待されるとクリックするだけで参加できる」等の多くの利便性を兼ね備えています。五月以降、千代田ホームページ委員を中心とし

て、横断的に「Z o o m 勉強会」がスタートし、当初のZ o o m の使い方方の勉強会から、詩吟の勉強会の要求が高まりました。並行して「東陽町支部」「新陵」「丸の内支部」「新宿G」等の教場にて、各十数名位のZ o o m 使用による詩吟勉強会も始まりました。

八月以降Z o o m 勉強会も正式に「Z o o m 詩吟研修会(一般)」も始まり、教場と同じく事前に「吟譜、伴奏、範吟」を会員にメールにて送信、当日は「吟礼、会詩合吟、素読、詩題解説、範吟、独吟、講評等」の順で勉強しております。

## Z o o m 研修会世話役会一同

### 【新会員紹介】

#### ◇金町教場

村松 幸子さん(令和元年七月入会)

広報を見て七月入会されました。初日、教場の吟行会でうなぎを食べに行く日でした。お声かけをすると気持ちよく参加され、その場で入会手続きも頂きました。六本の美しいお声で吟じられ、特に山の節調が素晴らしいです。お話が楽しくとても気さくな方です。

#### 糸賀 さとみさん(令和元年七月入会)

十数年ぶりにお逢いして話をしていて、ご本人も何だかわからないまま入会されました。お仕事で出席もなかなかままならず大変ですが、音感もとても良く、まだ五十歳と若々しく大いに期待しています。ムードメーカーで気は優しい美人です。

吉川 福恵さん(十一月入会)

広報にて十一月見学に来られ、教場長の吟声と適切な指導が良いと言われ入会されました。初日、七本の美しいお声で堂々と吟じられ、うれしい驚きでした。数か月の吟歴があるとのことでしたが、山の発声などプロの吟を聴いている様です。六十歳台と若くこれからが楽しみです。

#### ◇みなとみらい教場

山本 小夜子さん(八月入会)

令和二年盛夏、コロナで世の中淀んでいる中、詩吟に出会いました。とにかく明かりが少しでも見える所へと一歩足を踏み出しました。大きな声を出すこと、唸ること、響かせることはいいことです。摩訶不思議な記号がいっぱいですが、謎解きを楽しみながら楽しめたらと思います。

鈴木 美保さん(十月入会)

臨港パークを早朝散歩中、朝日に向かい発声練習をされていた皆様からお話を頂き、この度入会いたしました。詩吟は初心者ですが、このご縁に感謝してこれからどうぞ宜しくお願いいたします。

### 【令和二年入会の新会員】

コロナ禍のなか、ご入会有難うございます。共に詩吟を楽しみましょう。会員一同大歓迎しております。

一月 島田 穂積氏 (石神井)

中村 和子さん(用賀)



二月 中島 一氏 (熊谷)  
中澤 郁子さん (丸の内)  
児玉 道男氏 (ハザマ)  
金澤 真一氏 (ハザマ)

高橋 新一氏 (みなとみらい)

三月 北川 昭氏 (丸の内)

六月 猪腰 友典氏 (中野)

八月 山本小夜子さん (みなとみらい)

九月 斉藤嘉久子さん (熊谷)

十月 鈴木 美保さん (みなとみらい)

桐生 敏夫氏 (丸の内)

十一月 吉川 福恵さん (金町)

鈴木 豊氏 (表参道)

薦田 博氏 (表参道)

楯 香津美さん (表参道)

奈良 吉花さん (表参道)

濱田 邦子さん (表参道)

富田 直氏 (表参道)

望月 保延氏 (表参道)

榎本 美枝さん (表参道)

## 計報

### ◆村上 精道氏 (常任顧問・清水教場)

十一月二十五日逝去されました。享年九十  
四歳。平成五年十月岳精流東陽町教場へ入会  
され、平成八年十月清水建設OBを中心に清  
水教場を開設されました。

多くの会員を育成され、千代田支部・千代  
田岳精会の今日の発展を支える多大な功績  
を残されました。特に吟に取り組む謙虚で真  
摯な姿勢に後輩の信頼が厚い存在でした。  
謹んでご冥福をお祈り致します。

### 村上先生へ お礼の言葉

村上先生、突然の計報に接して私たちは耳を疑  
いました。

親鸞聖人は御文章の中で「朝に紅顔有りて夕べ  
には白骨となれる身なり」と人生を説いています  
が、この教えをこんなに身近に感じたことはあり  
ませんでした。

思えば、村上先生に詩吟にお誘い戴いたのは平  
成八年九月のことでした。当時は十数名の仲間  
でしたが、村上先生の力強いリーダーシップにより、  
現在清水関連教場の会員は三十名を優に超える  
までに発展しています。

この間、先生は詩吟の魅力を私どもに余すところ  
なくご伝授頂き、清水教場だけでなく、千代田  
岳精会の発展に大きく貢献されました。  
心から感謝とお礼を申し上げます。有難うござい  
ました。

これからは先生の残された功績を汚すことの  
無いよう、みなで頑張りますので天国から見守  
つて頂ければと存じます。

先生、安らかにお休みください。 合掌

令和二年十二月二日

清水教場代表 徳本 龍治

## 編集後記

令和初の新年は新型コロナウイルス感染が蔓延し、日本  
中いや世界中に大きな影響を及ぼし終息の見通  
しの無いまま暮れました。東京オリンピック・パ  
ラリンピックは一年延期して開催を目指してい  
ますが厳しい状態で、急がれているワクチン・治  
療薬の開発が間に合い世界中の若人が東京に集  
う、夢の日を期待し祈るばかりです。

感染防止の基本「三密」回避は高齢化の進んで  
いる詩吟界では全てが該当し、活動停止の状態が  
半年続きました。この間のモチベーション維持に  
苦闘の日が続きました。感染第三波が全国的に広  
がり更に自粛が求められている昨今、行政に効果  
ある対策が見えぬなか、医療現場の献身的な活動  
には感謝以外ありません。個々に自助で感染防止  
の行動を地道に続けて自分を守る日々が続きそ  
うです。

明るいニュースは、二教場の新設。入会新会員  
二十二名。復会もあり会員の意欲は衰えることな  
く、自主研修も再開が進んでいることです。今号  
には一年間の昇任審査、今年の年男・年女のご寄  
稿をお願いしました。三十三名の会員を紹介出来  
ましたが、これはこれまでの最多数でした。短い  
文章の中に一人ひとりの人生が満ち溢れ、編集は  
担当者冥利でした。有難うございました。

今年が一陽来復の年と願っています。

(八田 龍仁)